



美化活動を6月26日実施します



今期から、環境目標の美化活動は、年二回実施を目標にしています。その第一回目を6月26日 金曜日に実施します。梅雨どきで天気が心配ですが 計画通り行ないます。実施する場所や時間は、計画では昨年と同様でしたが、環境会議でもう少し検討してみなお知らせします。違った内容が追加されることもあります。みなさんのご協力をよろしくお願いします。

環境展を見学してきました

「2015 環境展」が東京ビックサイトを会場に開催されました。この環境展は、冬に行なわれる「エコプロダクツ」とは違い、環境関連の企業や環境レポートの変わりに、こうした場所で社内の環境活動の状況を展示し自社の宣伝をする目的で、参加する中堅企業が多いことが特徴です。大半の企業が、一つのブースに製品が一つと言った展示が多く、その会社の担当が説明にあたっているため分かりやすく、じっくりと話し合える時間が持て有効でした。

目を引く展示がたくさんありましたが、当社でも苦労している、エアキャップや梱包材クッションなどを空気を抜いた形で圧縮できる装置や、ダンボールで出来たパレット重さ1トンまで耐えられると聞いて驚きました。環境は将来的にもビジネスとして有望と捉えられているようで、海外からの出展も多く見受けられました。



今月の生物多様性情報

千波湖から桜川上流の湿地を観察してきました



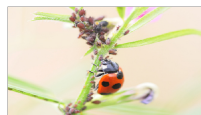
涸沼がラムサール条約登録が決定し、これからの保全活動が重要になってきます。私達のすぐ側にある千波湖や上流域である、沢渡川、桜川、逆川などの保全状態に関し無関心であると言わざるを得ません。この上流域の湿地帯が、千波湖の水質浄化や豪雨などの一時的な貯水機能を持ち、下市付近の水害を止めることを担ったり、この地域に生息する生物、その多様な生態系を支えていることなど、ほとんど知られていないようです。このままの状態が開発が進行されると、生態系が崩れるばかりかその矛先は、いつか市民生活を脅かすことにもなりかねません。涸沼の保全と同じように、私たちの住んでいる地域自然を、もう一度考え直す機会となりました。今回の研修では、逆川についての発表会を支援刷る計画です。

社長コメント ～ 本社工場の照明をLEDライトに交換 ～



当社では、電気使用量削減対策の一環として、本社工場のLED化に取り組むことを決定した。組立工場に関しては、器具が比較的新しいタイプで構成されているため、可能な限り活用できる別タイプを検討している。今後、新製品の動向等調査を進め、最善の道を探っていく。

今月の環境用語



「生態系サービス」

生物多様性と同じように、環境の用語として使われはじめましたが、「自然のめぐみ」と覚えてください。地球上に住むすべての生物が、他の生物に支えられて生きている。生態系を無視した人間の生産活動は、いずれ人間の災いの種として戻って来ることを知らなければなりません。

今月の環境目標進捗状況

	今月の目標	今月の実績	今月の評価	本年目標累計	本年実績累計	累計達成率	全体評価
電気使用量の削減	14,037kwh	12,924kwh	(達)	30,480kwh	29,201kwh	104%	↑
一般ごみの削減	60袋	60袋	(達)	132袋	131袋	101%	↑
エコキャップを回収	722個	801個	(達)	1,571個	1,903個	120%	↑
美化活動の実行	—	—	—	—	—	—	—
生物多様性保護支援	10%	10%	(達)	10%	10%	100%	↑